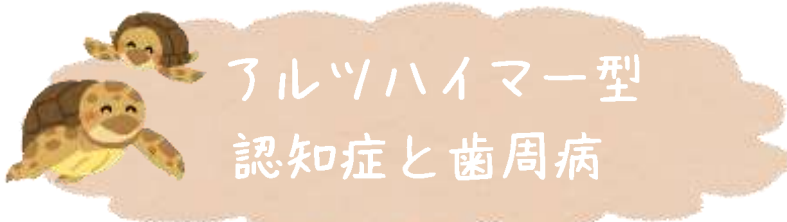


あさか訪問通信



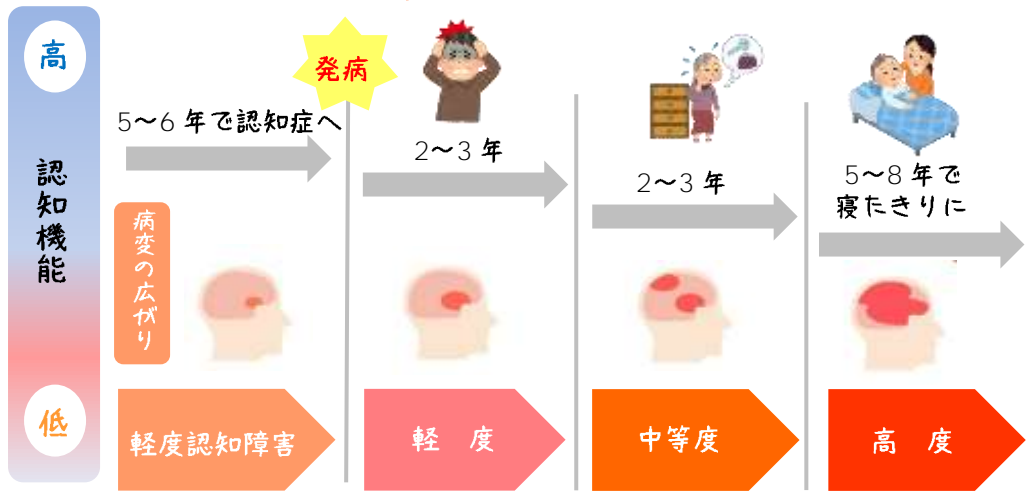
R6.7月号



アルツハイマー型 認知症と歯周病

日ごとに暑さが増してきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？増加の一途をたどる、認知症。その進行を予防するのに、お口の中のケアがとても大切なことをご存知でしたか？普段の口腔ケアが、認知症を防ぐことに繋がるのか紹介致します。

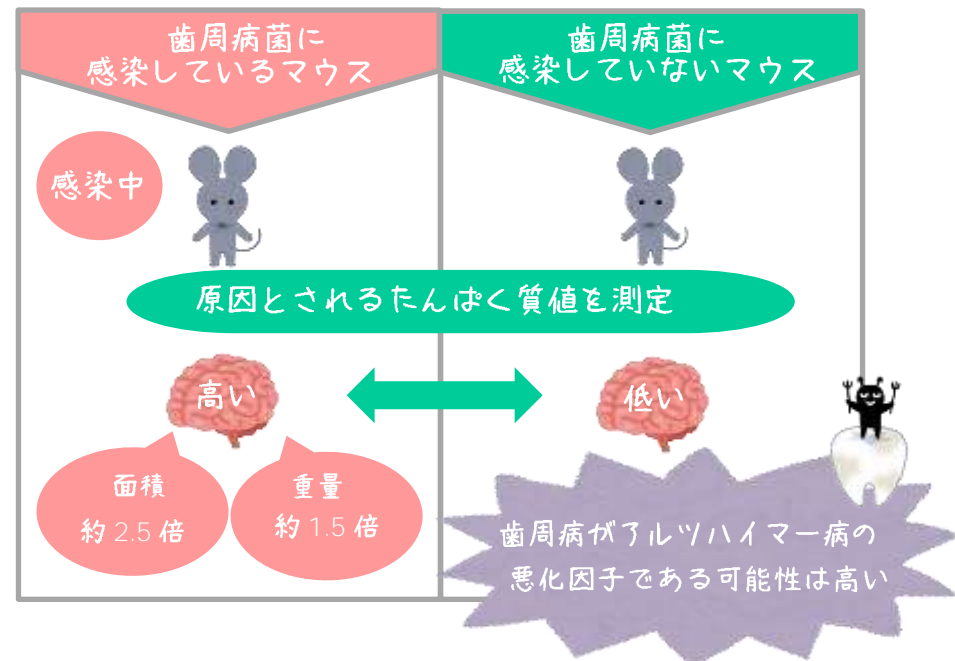
●アルツハイマー型認知症の進行スピード



認知症とは、なんらかの原因によって脳の損傷を受け、その働きが悪くなることで記憶力や判断力が低下し、日常生活に支障がおきる状態のことをいいます。認知症の5~7割を占めると言われるのが「アルツハイマー型認知症」で脳の中に異常たんぱく質が蓄積するなどして神経細胞が死んでいくことで発症します。認知症とよく聞くこともあると思いますが、認知症一歩手前の状態で発見し、認知症の発症を遅らせるのが重要になります。この時、口腔ケアがとても大事になるのです。

●歯周病と認知機能に関する実験

近年、歯周病の原因菌やその毒素が血管を通して体内に侵入することで、アミロイドベータなどの異常なたんぱく質が体内でつくられ脳に蓄積することが解明されてきましたが、蓄積の仕組みがよくわかっていませんでした。九大や北京理工大(中国)などの研究チームは、マウスの腹の内部に3週間歯周病菌を直接投与して感染させて、正常なマウスと比較してみました。



口の中の衛生を保つことは、認知症の方だけでなく誰にとっても重要です。口の中が不衛生だと、虫歯や歯周病口臭の原因になるだけでなく、糖尿病など様々な病気を引き起こす原因となります。

歯や歯茎が健康な状態だと、しっかり噛んで食べることができ、飲み込む力を維持することができます。認知症になると、理解力の低下、意欲の喪失、集中力の低下などの症状が起きます。口腔ケアは生活の質を維持するためにとっても重要です。通院ができなくなった方を対象にご自宅や施設等お伺いしております。お気軽に相談ください。